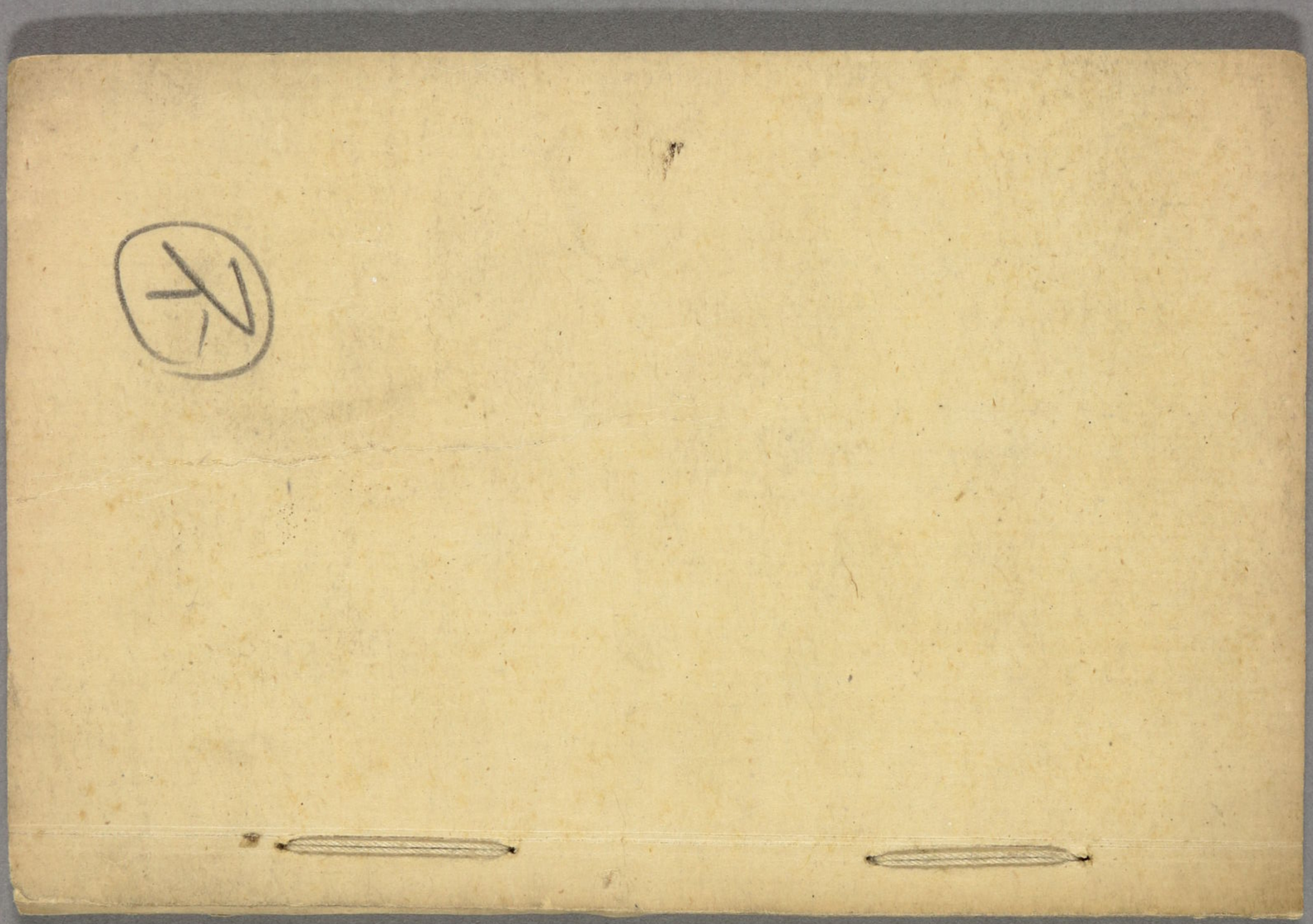


立机科括紙殷通哥

正述心緒

（ありのまゝを つゝみかくさず あらゝかに）

「とれがやまとことのはのうまれもいとゝあつうきざすめる」　三河　大物

寄物陳思

（よせうたに 譬諭此科ふ摂む）

「牛あはとづきたとへハ思ひなのそぎくあハさるところ」　南馬道　松新

雑

（まぐれのこと）

（古き四季の歌ハ此科ふ入る）

「まゝの川そどこふもあハゞあゞとりてうのすてことた」　中ノ千　竹住

雑体

（まぐれのありのうた）

（浄瑠璃 長歌 入り字あまりのうた）

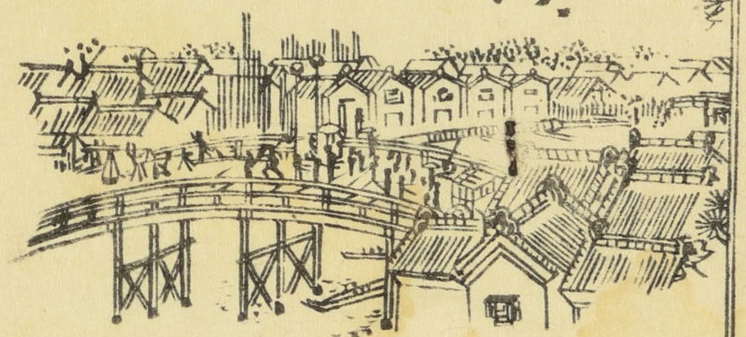
「そとてひとのとハぎやけんあたとそ」
「そのやきこゝきもんきこうハ百十八道ゟ
その中ハ」　けやきのハのこうる　浅草　北巷

東都名所 八首

日本橋

橋ハ
ゆうれんで
お陰の
うれしハ
ちりも
見ず
ちりハ
ぜん

青柳辰



浅草寺

ぜんつうふぜんの
ひとへうるあさてさ
でうれ

今日ひとき
ひと
らんとも

青柳庄

佐久町 赤岩
山添
秋川 國道
八代目 巨井

五節供の寿ぎ

中川児十郎

常磐津静太夫

清元延寿賀

五色八重咲の

東海道五十三驛

四日市 朝看板

初音原

川さき

正月

二月

三月

四月

五月

六月

鶴ヶ唐市

楽丸

七月
八月
九月
十月
十一月
十二月
九返舎一昇
中村魁雀

○正述心緒▲寄物陳思
小田原の外良つんぶ
清元
市川鰕車
三代目
竹村
久米樣
虚
霊
面白

千ぢんのあれハまつぢう
文政のむし
きるわざふ
ちやさ
のまぢ
うけてきさ
牛高登山
沼津
系
けふも
戎神
辰ふるのそハけを
むとこの名
ひぢーのてまつの
折川
きれてぶーー
きふかる
あのいつぶぶ
もとぢふ
あとで
わろりこ
梅の
山名
八百
十
甫系
由井
辰起
千住
九

揚屋町 魚虎
中丁 おもや
其都
中橋 孫菊
三丁町
辰巳大盤
都民中

岡部
今戸 玉秋
浅草
金谷
宮戸川
尾張屋
山花
仲の丁
松の
清川
日市
明勝
小ぎく
田舎泰演

西坂

重石

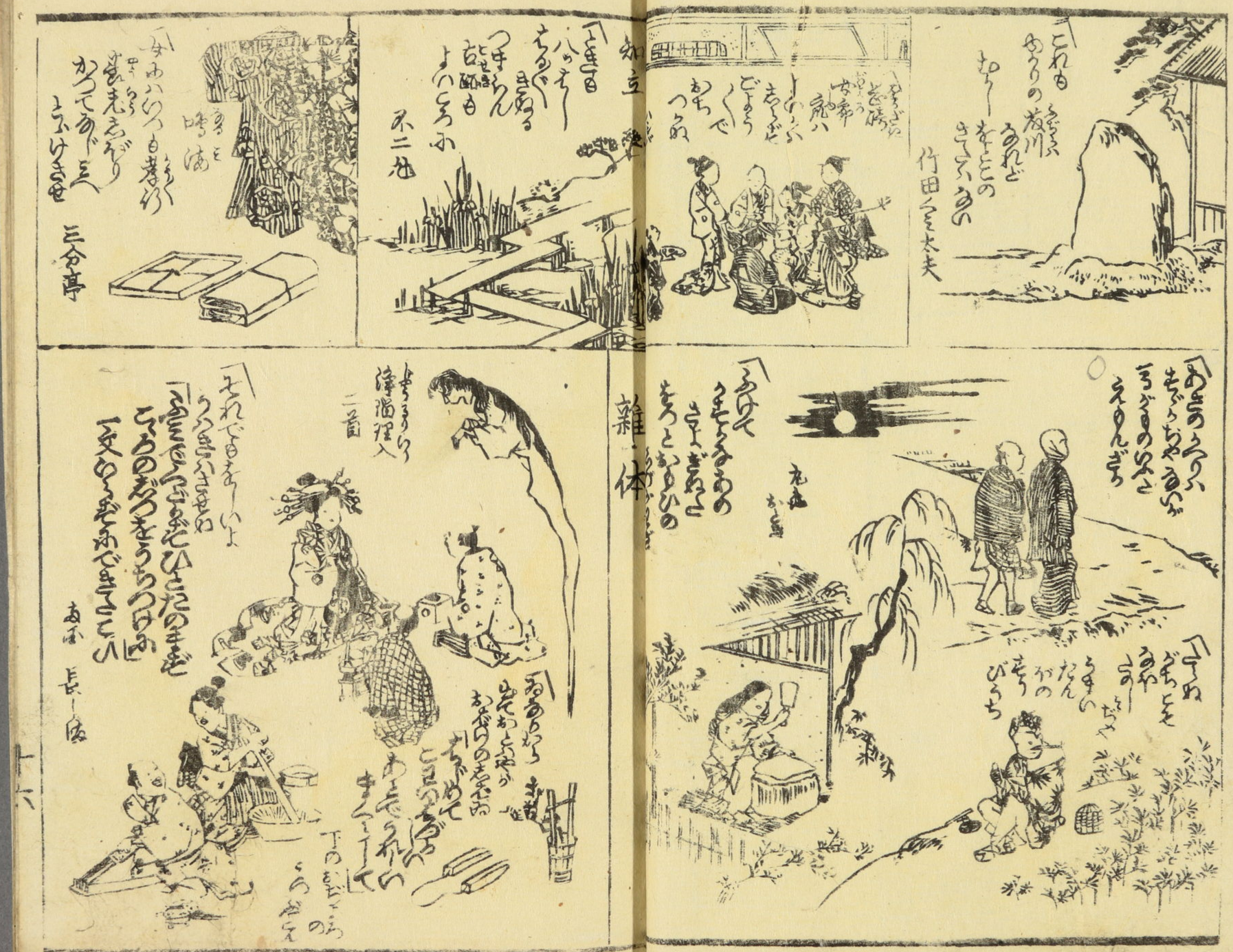
見附

小柳

川

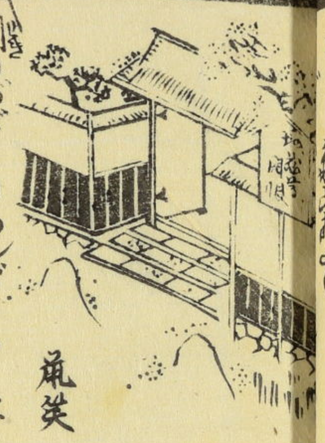
美代太夫
千代路
根岸長次
尾張美袖
武蔵屋ちよん
豊倉

雑歌
二川
仲伸
扇要
福蝶
菊千
甲子楼
丁子
久長楼
西井


竹田ごを大夫
知立
不二丸
三分亭
雑一体
二首
長一丸

駿春亭
小五太夫
東花堂
氏仲

竹堀太美



問答

七首

里笑

七里

里笑

七里

里笑

七里

里笑

七里

大門夜雨
餘興
新吉原八景
久保田
隅川
中村
中町晴嵐
小国次
八百善
芳年

湖水
紀伊国屋 義明
山谷 笑竹
封疆春雪
田頼落屋
三笑
今戸帰帆
仿酒
千代作

右の八景ハ寛保元年壬子年吉原細見「鶯の思い出」の巻首ニ出セるところ之此外ニ享保九年甲辰年能書「露月々並」あるよりハ原八景の發句あれどもこれハ大ニ遠ク

あるハ外ニ見えたる今その書名をもつまびらかニせず清聲翁しるす

山谷堀八文字屋

一わんふめでゝや むかしのくらう
をとこめ女蝶の
ゆめふして
江戸の水 三馬

一かさねちぎりハ
千万代も

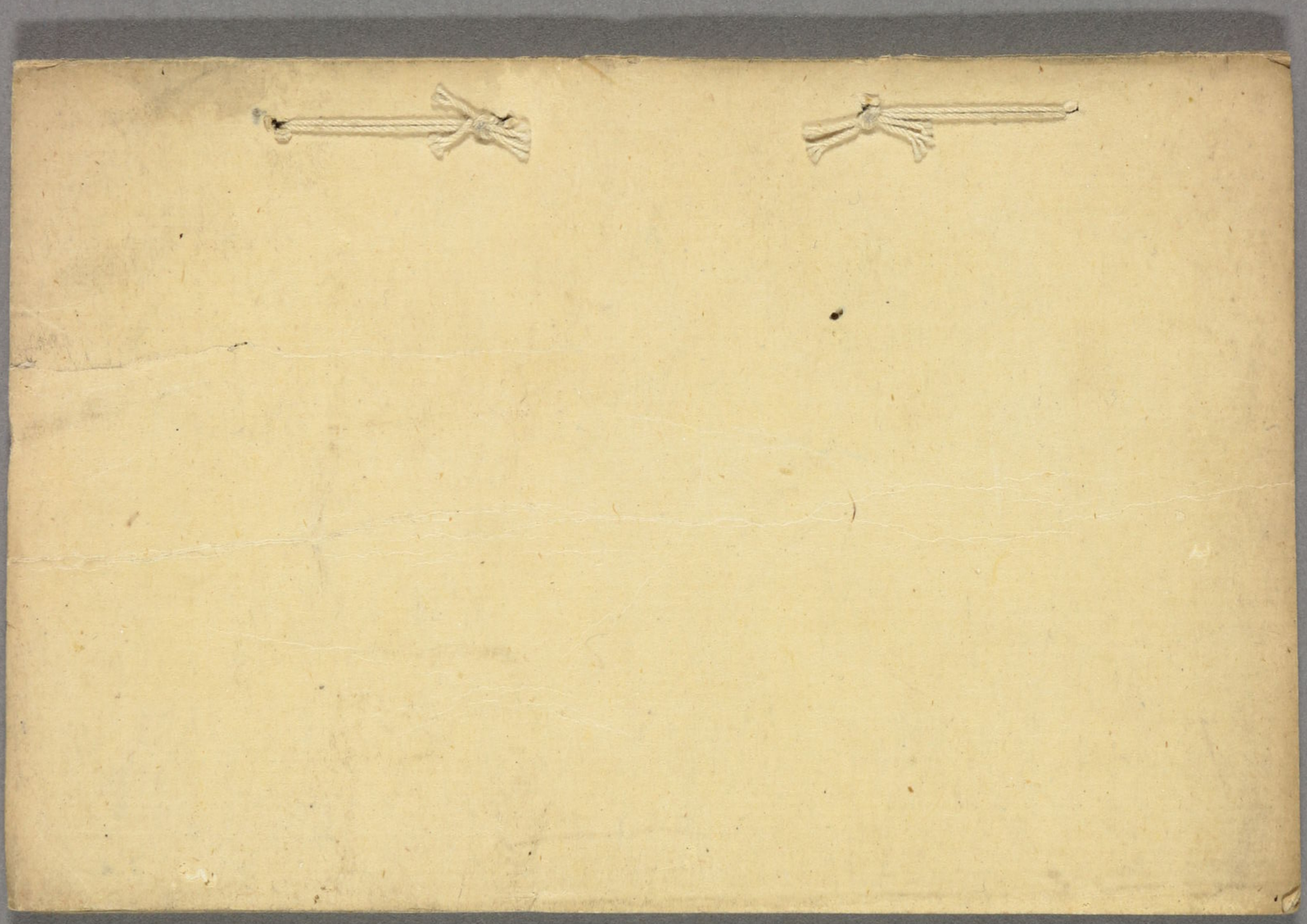
ド、イツとゆくる小唄。江戸ゆて唱初ハ絶四五十年の往昔ニ流行し其ゆゑ

あるゞち流行ることゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。然ハ捏ハ同様の小唄ゆて曲節も異ニ

して。ヨシコノ節とゆくるゆん。二十年餘をちつうゝ世ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。して繼

ぬ人ゆく 「澳の暗ハのふ自帆ゞつ人とゆるあれハ紀伊國蜜柑船。チョウチョ

静ふさゝとゆコリヤ又ヨシコノ。ゆゑどうゝ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ

とれハ某尼の手にて等閑さこそ考るせのつとう〻手事かなら〻今も人〻〻〻その寛政の末か
かみる本色今古園の藏本
「あつてきもあく〻ものやをけくやかなぶつけうとてる
「考つるまさとまとるいひつ〻きつ〻うるぐてかかとくか
「ひとつ〻やどろうでまぎれもせうぐれ〻ハきもきもあ〻きづまり
ゆくとうとの
やたらふと
ふんかん
あ〻む。
いりぐ
こ〻ふんか
そだりつめん
中略
こてふんかいぐ
いりこふんか
そだりつめん
ぼの二さ〻ハ
もやどぐろ
ぐぐどやぐ
たんともる
さーやる
とぐや
いまに
ぐさう
よもま
二百年の
ぶを業
せす今の
どのくふりと
巻ものこえ
言
墨へど吸吉ふ
もの〻ス
どりつま
うつ〻く
今もま
うたう

さハ此歌之此歌根元ハ知ざれど。古く尾張の厚田の傀儡ドゝイツとう
編ふ。乱のえ中ハドゝイツドイ。浮世ハサクくと折返ー嘩ーし事
推き。小耳小挟て忘るゝど。今ハ絶て更ふいくど。然ども唱歌ハ今音部も
都も一斉くして。東都ふも古来人の知る「宮の厚田の明神さん」遠ぎ
うまとハ心のりわせぬ。厚田ふ古く歌ひしハ。此歌既ふ一つの説故今猶宮訳
ふ歌ふ所。吾嬬風とハ似て非なれども。其えいるゝ聴けバ知られぬ。或人の
説ふ。ドゝイツハ娜娜ふもうゝへを品よりくも唄ふるゝ。百度えより一唄あて。
思ひを述る小唄ふ百くゝ一ありゝとハ。一時の戯筆。唯ドゝイツハ嘩詞ふて
何のふやく知べからぬ。抑ゝ小輯ゝるハ。癡情小通ド世ふ西落る人達
の新作ふて又漫口ふ多けれバ。荒涼ふるも少ゝ色をふ香をふ
汁次の。醤油のよいの小菜味の薫。梅ふ鶯声清く。是を酒宴ふ歌ひ
るバ。達摩も拂子を投節の絶ゝる後ハドゝイツ計ぞ。小唄ハあゝさる